

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094000033		
法人名	医療法人社団 緑風会 水戸病院		
事業所名	グループホーム水戸		
所在地	福岡県糟屋郡志免町志免東4丁目1番2号		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果確定日	平成27年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム水戸は、医療法人社団緑風会水戸病院(居宅介護支援、訪問看護・介護ステーション等看護・介護等の関連事業所も併設している。)を母体に緑豊かな自然環境に富んだ敷地内の一角に4階建ての2、3階に開設している。ゆっくり一緒に楽しみながら その人らしさを大切に生活を送るを理念に掲げ家庭的な雰囲気の中で暮らして頂けるようにスタッフ一同取り組んでいる。さらに利用者様の有する能力を出来る限り引き出すように施設内1階において週2回、医療的な精神ケアも併せて行っている。又運営推進委員会議においては、行政担当者、地域包括支援センター職員、地域代表者等の方々にも出席していただき地域の拠点となるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体医療機関からの職員異動もあり、全職員が理念を共有する機会を設け、理念の実践に努めている。残っている機能を活かすためにゆっくり待つケアに努め、入浴の準備を一緒にすることで、物盗られ妄想がないように支援している。車イスの安全ベルトの使用を通じて発足した安全委員会では、身体拘束防止マニュアルに沿ったアンケートを、全職員に実施している。入居者が楽しみながら生活するには、まず職員が楽しく笑って就業することが大切と、シフトの配慮や研修参加の推奨で、働きやすい職場づくりをしている。母体医療機関主催の行事参加で、地域の方々や交流したり、敬老会後の家族交流会には、昨年同様多くの家族が参加している。入居者や家族の参加した運営推進会議、町主催のグループホーム情報交換会や認知症ケア会議の参加で、情報交換や連携をしながら、理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		

ハシロ製パン株式会社	4. ほとんどいない
------------	------------

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **2階／グループホーム水戸**

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人ひとりが、理念を自覚したうえで、自分の家族と同じように愛情、思いやりをもち、対応している。また、出来ないスタッフに対しては、その場で声かけをしフォロー、指導を実施している。	共用空間の壁に法人の理念と共にグループホームの理念を掲げ、全職員が理念を共有する機会を設け、理念の実践に努めている。残っている機能を充分生かして自分ではしてもらおうなど、待つケアに努めている。また、入居者が楽しく過ごすせよように、職員は楽しく笑って就業している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人、老人ホームの行事(スプリングフェスタや秋祭りなど)に参加している。また地域の方と一緒に大塚地蔵長寿祈願祭なども行なっている。	敷地内の母体医療機関の主催の行事に参加して、地域の方々と交流している。また昨年、母体医療機関が認知症医療センターの指定を受け、地域の方から空き室状況の問い合わせがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ活かされていない。今後、地域との協力は不可欠となるので、より勉強し、地域に貢献していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催している。施設においての生活状況や、今後予定している取組みを伝え、ご家族や、出席いただいている方からの意見や希望などを聞き情報の共有や、できる事は実践している。	家族の参加しやすい時間帯の開催が継続し、本人や家族、地域の組合長や保護司の参加がある。会議では入退院状況やホーム行事等を報告し、会議録を各ユニット入り口に公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会や認知症ケア会議、同町内の施設の方や役場の方を含めた情報交換の場を積極的にもつように心がけ、質の向上に努めている。	町主催のグループホーム情報交換会に出席したり、認知症ケア会議に認知症医療センターの職員と出席し、情報交換や連携を取っている。グループホームの在り方を地域から考える機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極力、安全ベルトを使用しなくていいように、現在安全委員会を設置し、少しずつベルトゼロを目指している。なるべく、ホールで過ごして頂き、危険の早期発見に務めていく。	入居者の心身状況で止むを得ず使用している車イス安全ベルトの使用を通じて、安全委員会が発足し、身体拘束防止マニュアルに沿ったアンケートを職員に実施している。車イスの安全ベルトは、家族の了解を得て、職員体制に考慮した時間を限定して使用している	
7		○虐待の防止の徹底	水戸病院での院内研修に積極的に参加する		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
	kai	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	とともに、慣れや自分への甘えから、対応に問題を感じた時は、いっしょに振り返りを行う計画にしている。		

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人である水戸病院の院内研修に積極的に参加し、また個人的に研修に行った際は、情報の共有として、他のスタッフにも伝達してもらうよう取り組んでいる。研修の資料などは、各階においている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレット等を整備し、入居時に家族等に説明している。現在2名の入居者が制度を活用し、2ヶ月毎に訪問される後見人もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、スタッフ2名で対応させていただき、特に大事な点は、文書として残してある。また、面会のたびに、声かけを行い、不安の軽減につとめている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の入り口に意見交換箱を設置している。また、運営推進委員会、家族交流会等でも意見交換の場を設けている。	今年度も敬老会後に家族交流会を開催し、22名の家族が参加している。家族の要望を聞きたいと、職員もテーブルについているが、具体的な意見はなかった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で改善すべきことや、疑問な点などがあった場合は、自分から、声を出せるような環境作りを目指している。その為にも、スタッフとのコミュニケーションを大事にしている。	月1回、ユニット毎にミーティングを開き、介護計画や業務内容について話し合っている。敬老会などの行事については、2ユニットで協力するために、全体ミーティングで話し合っている。率直な意見を表出できる機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれが目標や責任感を持って、仕事に取り組めるよう個々との面談やコミュニケーションを大事にし、なるべく希望に沿った勤務にできるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時には、個人の仕事に対する思いや、希望などをしっかり聞き、お互いが納得のいくまで話しをしている。	20歳代～60歳代の年齢に幅のある男女の職員が就労している。常勤職員は法人で雇用され、法人の多様な部門に異動している。非常勤職員はホーム職員として募集され、管理者も面接に同席し、採用に関する意見を述べている。シフトの希望が叶えられ、勧められて参加したビューティーセラピーの研修を活かし、行事に参加する入居者にお化粧をしている。職員同士が仲が良く、働きやすい職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の院内研修の参加や外部の研修には、なるべく参加してもらい、出来ない人に対しては、資料を見てもらい、内容を熟知してもらうよう努力している。	母体法人の医療機関で開催される研修会に参加している。入居者に対する言葉遣いは特に留意し、不適切な言葉遣いはその場で指導している。	

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修などは、分かっている時点で、スタッフにでんたつしてい。また院外での研修に関しても、それぞれの目標をもって、適任者を推薦し、参加してもらっている。そこで大事にしていることは、情報の伝達と共有。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症グループホーム協議会に所属し、会議等でそれぞれの施設の情報交換を行っている。それによって、自分たちの改善すべき点や、良い点などは、当施設でも取り入れるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご家族やご本人さまの話をよく聞き、生活歴や趣味等十分に把握し、日々の生活の中で取り入れられることは積極的に取り入れたりと、工夫している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず大事にしていることは、家族の思い、不安等の気持ちを十分に傾聴、共感したうえで、安心して当施設に預けて頂けるよう、コミュニケーションを大事にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活支援専門員や、精神保健福祉士と相談、支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念である、楽しく、ゆっくり、その人らしくをもっとうに、一方的な介護にならないよう、対応させていただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までのご家族の思いをしっかりと把握し、面会時などに、日々の生活の様子を、積極的に伝えるようにしている。		

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、面会にきていただいている方々に、日々の生活史をききながら、いつでも会いに来ていただけるよう、声かけ等積極的に行っている。	地域の友人の訪問や、訪問した家族とホーム周囲を散歩する入居者もある。夫が毎回持参するおやつで体重が増加した入居者もあるが、夫の心身状況を把握しながら、夫婦の関係が継続できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の集いで皆さんと季節の歌を歌ったり、毎月、みんなで誕生日会を開き、お祝いなどをして、「皆さんと一緒に」にも積極的に行っている。また時には、トランプやゲームなども行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各フロアのケアマネが、最後まで責任を持ち、その方や、家族が安心できる様対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時などにしっかりと要望をお聞きしている。またどのようにしたら家族の希望に沿えるのかなども対応している。	アセスメントシートを整備し、入居者の情報を整備している。担当職員は、家族への連絡や誕生会カードづくり等に関わり、把握した情報をミーティングで共有している。	ミーティング等で共有した入居者の思いや意向をアセスメントシートに記載し、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、ご本人に若いころの話や、趣味、得意だったことなどをお聞きしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まず、朝に体調をチェックさせていただき、夜間の状態や、ご本人の状態の変化を確認し、スタッフみんなが把握できる様、申し送りなどをしっかりし、継続していくように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケア会議などをおこない、入居者様やご家族の意向に沿った介護計画を立案し、その都度振り返りを行っている。	毎日モニタリングを実施し、結果をミーティングで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。本人の意向を重視して、自分で入浴時の準備をしてもらい、物盗られ妄想がないように支援している入居者もある。	サービス内容が適切に実践されたかをモニタリングしているので、短期目標の達成や変更を話し合い、モニタリング項目のさらなる検討を期待します。

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の生活状況や少しの変化、なども記入、申し送りをする事で、介護記録の見直し、評価につなげている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあった個々のサービスを受けられるようケアマネや居宅支援センタに一相談して取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアマネと相談しながら心身の精神状態を把握し、生活の質を下げることのないよう、地域の支援センターなどとも連携している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の副院長から各フロア毎、2週間に1度の訪問診療を受けている。必要時には、他の医療機関への受診も行っている。また、1週間に1度は歯科の往診もあり。	母体医療法人の副院長が主治医で、定期的な訪問診療を支援している。管理者の細やかな観察で疾患が見つかり、手術後不穏症状が軽減した入居者もあり、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや、ノート・記録の中で少しの変化も伝える習慣を個々が意識し、毎朝バイタルサイン、以上の有無を確認、看護師と相談、報告しながら対応している。そこで必要時は、法人の担当医へ連絡をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合は、入院先の方へご家族の意向などもしっかりと伝え、自分のもっている情報もしっかりと伝達している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、まずはご家族の意向を確認し、夜間や救急時の対応についても話をしている。重症化や終末期の場合は、担当医師・家族を含め方向性を、決めている。	入居時、医療行為が必要な場合は母体医療機関に搬送するとの確認書を取り交わしている。心身の状況に応じて、主治医から随時説明を受けられるようにしている。以前、終末期になり医療機関に入院し、その後ホスピスに転院された方もある。	

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修や、外部の研修で知識を身に付けている。今後は、研修のときだけでなく、定期的に事故発生時の対応などをスタッフ間で学ぶ機会を増やしていきたい。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の非常災害訓練を行っている。また非常時携帯する書類も用意相手織り、災害時には、隣接する病院の応援も依頼している。	5月の避難訓練では、避難場所の敷居にスロープを設置するように消防署から指導があり、11月の訓練ではスロープを用意する予定である。入居者全員が避難後も見守りが必要なので、護送と居室入口に表示している。母体医療法人の栄養部で飲料水や食品を備蓄し、台帳を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の生活歴や心身の状況に応じた声掛け、対応を心掛けている。	理念のその人らしさを支援するために、誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応を実践している。公務員だった入居者の毅然とした口調や表情にあわせて、職員はゆっくりと話しながら対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人さまが、何を一番に伝えたいのか把握するため、スタッフもまず手を止めゆっくりと聞ける姿勢を示し対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の理念である、その人らしく、ゆっくりとをモットーに、入居者さまを中心に、QOLを損なわないように対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類は、スタッフが決めるのではなく、入居者さまに決めていただいたり、個別性を重視している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分けや、食事の後片づけなどできる方には、一緒にスタッフと行ってもらっている。その時の生き生きとした姿を大事にしている。	全員が食卓につき、いただきますの挨拶で食事をしている。職員も同じテーブルで同じ食事を摂りながら、食事介助をしたり、食べやすいように食器を並べ変えたり、おかずをスプーンで取りやすいようにまとめ、残存機能を維持できるように、見守る姿勢で関わっている。	

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも午前、午後とおやつの間を取り入れ、嗜好品を楽しんでいる。また個別に応じて、水分の少ない人や、内科疾患がある人には別に対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、できない方はスタッフが一緒におこなっている。また歯科往診のさいも口腔ケアを行ってもらったり、今後のアドバイスもいただき、介護に生かしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの声掛けを行い、スタッフが連携して、排尿誘導を行っている。また立位のできる方は、車いすに乗りしていても、スタッフが介入しながら、トイレで排泄するように対応している。	出来るだけトイレでの排泄を支援している。家族の差し入れで体重が増加し、トイレで立位保持ができなくなり、おむつ使用している入居者もあり、家族に協力を求めたり、主食の量を減らすなどの対応をしている。排便後は布おしぼりで清拭をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み込みやすいように工夫し、繊維の多い食事や、おやつ時に乳製品を意識的にとっていただく、なるべく歩いていただくなどで日々対応し、それでも排便がない場合は、看護師が対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に合わせて、入浴を嫌がる入居者様には、スタッフ主導になることなく、入りたいと思っただくまで、ゆっくりと対応している。入居者様のペースでスタッフは動くようにしている。	週3回、入浴を支援している。再三声をかけても入浴を拒否されたり、職員をひっかいたりつねったりする入居者もあるが、無理強いをせず、少なくとも週1回は入浴してもらえるように声かけ等を工夫している。浴室は、各所に手すりが設置され、三方から介助できる個浴槽が設置され、シャワーチェアで洗身する入居者もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に応じた睡眠パターン・睡眠の環境を整え、それに合わせた生活リズムをつくらせている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が内服している薬に関しては、スタッフ一人ひとり、何を飲んでいるのか把握できるように内服状況ファイルなどをつくり、みんなが把握できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援	日々の生活の中での住居スペースのそうじ		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		kai	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	などを一緒にしたり、時には一緒に歌ったり、塗り絵などをして余暇の時間も大事にしている。		

自己	外部	kai	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事にバスハイクを2回ほど入れている。また散歩の支援や、ご家族との外出も協力を得ながら行ってもらっている。	バスハイクが恒例となっている。役場の環境課から地域のお出かけスポットの情報を提供してもらい、使用願いで駐車場を確保することもある。週1回程度は職員や家族と、ホーム周辺を散歩している。	2・3階に開所したホームなので、緑豊かな敷地内の四季折々の季節を体感できる外出支援が増えることを期待します。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院売店などに行くときなどに支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙は希望時に支援している。入居時に、ご家族には説明している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には窓を大きくとられているため、光がさし明るい空間である。また地熱空間設備もあり、冬は暖かく過ごすことができる。ソファでゆっくりとテレビも見ることができる。	各ユニット入口は職員による飾り付けが継続し、和やかな雰囲気を作っている。共用空間は、壁に職員と共同制作の貼り絵が掲示され、テレビの傍ソファで、うたた寝をする入居者もある。厨房前はひじ掛けのある座位を保持しやすい椅子やテーブルが置かれ、空調や換気も管理されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人、お一人に各部屋があり、共同スペースでテレビもみたりと、自由に過ごすことができる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドなどは、基本的は備え付けのものを使用しているが、希望時には、相談をうけている。また家族の写真などを飾らしていただいている。	広い窓から周辺の景色が見渡せ、明るく清潔感のある居室づくりをしている。頻回に夫の来訪がある入居者もあり、夫婦で寛げるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の身体状況、生活歴を把握し、入居者様のペースにあわせたケアを行っている。		